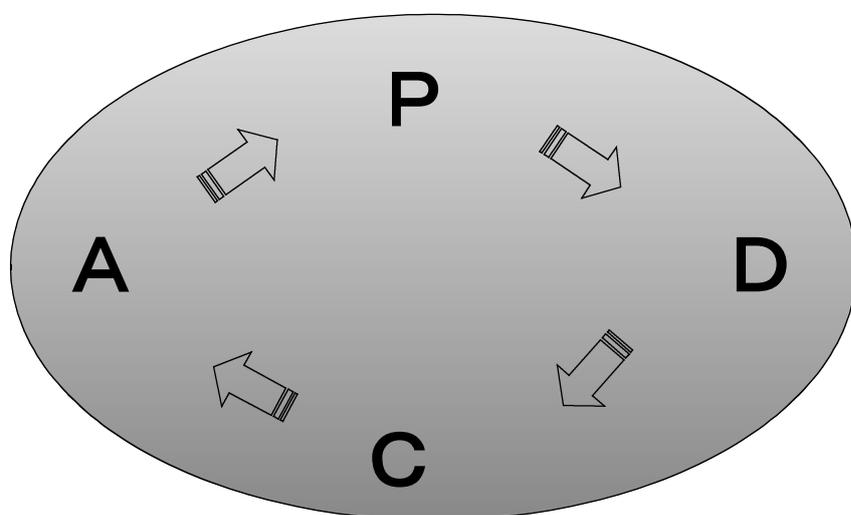


平成25年度

学校評価書



苫小牧市立北星小学校

学 校 評 価 書

H 2 5 年 度 苫 小 牧 市 立 北 星 小 学 校

北 星 小 学 校 教 育 目 標

豊かな人間性と、たくましい実践力を持った子どもの育成

- | | |
|-------------------------|------------|
| ○進んで知識を求め、実践力に富んだ子ども | 【よく考える子】 |
| ○人間や自然を愛し、美に感動する心豊かな子ども | 【思いやりのある子】 |
| ○理想に向かって自らを律し、やりぬく子ども | 【ねばり強い子】 |
| ○生命を尊重し、健康でたくましい子ども | 【じょうぶな子】 |

本校は、上記教育目標の下、平成25年度学校経営プランに示したとおり、下の三つの柱を立て学校経営を行ってきた。

- | | |
|------|-------------------------|
| 第一の柱 | 「知育」「徳育」「体育」のバランスのとれた教育 |
| 第二の柱 | 学校の教育力の向上 |
| 第三の柱 | 児童の安心・安全の保障 |

年度末となり、経営がどうであったか、子どもアンケート・保護者アンケート・内部（教職員）アンケートを行い、その結果も材料としながら経営のチェックを行い、次年度への改善策、見通しを示す。

全般的な傾向（各種アンケートから）

昨年度管理職も含め過半数が入れ替わる異動があり、新しい構成での学校経営が始まって2年目を終えようとしている。この流れから言えば昨年度よりも今年度の各種運営がスムーズに行き、尚かつ質的向上が図られてしかるべきであるが、はたしてどうか各種アンケートから検証する。

保護者アンケートから

- ①「学校経営全般に関する設問」について、7項目中5項目で、「Aよくあてはまる」「Bどちらかと言えばあてはまる」と回答した割合が増えている。

- ☆「北星小教育プラン」については共感するか A 回答→前年比+6. 2
- ☆特別支援教育を行っていることを知っているか A 回答→前年比+6. 7
- ☆学校から家庭への連絡が適切に行われているか A 回答→前年比+9. 1
- ☆図書室やコンピューター室、ICT室などの環境整備を進めているか
A 回答前年比+6. 7 A B 回答+12. 3

- ★地域の協力を得ながら行う、安全・安心への取り組みは効果を生んでいるか
→前年比 A B 回答-6. 4

- ②「お子さんに関する設問」では全2項目でA・Bに回答した割合が増えている。

- ☆子どもは授業がわかりやすいと言っているか A B 回答91. 9%
→前年比+1. 8
- ☆子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っているか A B 回答83. 5%
→前年比+3. 9

- ③「学校生活に関する設問」に於いて、教師の児童理解や指導に関する設問に対し概ね好感的な回答が多く、前年比でもA B 回答が増加している。

- ☆先生は子どもの相談や連絡に適切に応じているか A B 回答94. 2%
→前年比 A 回答+10
- ☆先生はお子さんのことを理解しているか A B 回答92. 7%
→前年比 A 回答+9. 1
- ☆先生はお子さんを適切に指導しているか A B 回答91. 5%
→前年比 A 回答+9. 6

子どもアンケートから

「学校は楽しい」「国語や算数がよくわかる」「あいさつや返事を良くする」など全般的な設問に於いては、前年比若干の増減はあるもののほぼ同水準で概ね良好な評価結果となっている。本校の特徴がうかがえる設問について後頁で示したい。

内部(教職員)アンケートから

- 4・・・十分達成
- 3・・・概ね達成
- 2・・・どちらかと言えば達成していない
- 1・・・ほとんど達成していない

4段階評定の平均を下に示す

【昨年度よりプラスとなった項目】

「教育目標」「教育プラン・学力向上プラン」等学校の根幹をなす多くの項目でプラス評価が増えている。

① 4つの教育目標実現の印象	昨年平均	2.9	→	今年度	3.1
② ICT機器活用の効果		3.1	→		3.4
③ 学びの形態の工夫やノート指導の効果		2.8	→		3.1
④ 長期休業中などの学びのサポート		3.1	→		3.3

【昨年度よりマイナスとなった項目】

① 児童の実態把握と望ましい生活習慣の育成	昨年	2.8	→	今年度	2.6
※2か1に評定した数が8/21名と多い					
② 性教育の実践と保護者への啓蒙		3.1	→		2.9
③ 欠席の多い児童についての情報共有と関係機関との連携や組織的対応		3.1	→		2.8
④ 分掌間の協力や職員室スタッフと担任との連携		3.2	→		2.9
⑤ 分掌や特別委員会等の組織は良く機能したか		3.1	→		2.9
⑥ 職員会議で自分の考えを積極的に発信		2.7	→		2.5
※2か1に評定した数が11/21名と多い					

【まとめ】

大幅な異動から2年目が終わろうとする中、保護者・教員ともに、学校が行う根幹的、基本的なことに対する理解が深まり、肯定的な評価が増えているものと思われる。特に今年度は、授業改善を中核に据えた学力向上、それを支える環境整備等を重点的に行ってきたが、自主公開研究会で発信したことなどもあり、それらと関連する項目の評価が高くなっている。さらに、公開研究会の実施について、学校関係者評価会議に於いて、「先生方にはプレッシャーもあろうが、何より力がつくであろうし、実施することに好感が持てる」という意見、「いろいろな機器を活用した取り組みにも好感が持てる」という意見があった。

次年度は、これら高評価を得た部分を土台に、大幅異動後3年目の充実深化の時期に入るとおさえ、地道な取り組みを確実にしつこくしていくことが重要と考える。

→次年度経営のベースに

また、北星小学校の特徴的な傾向が見られる面、評価が下がった内容等については改善の方向をしっかりと持ち次年度につなげなければならない。

児童アンケートでは、多くの児童が学校が楽しく、学習も概ね理解できていると感じているが、1割くらいの児童が「楽しくない」「よくわからない」と回答しているのも事実であり、個々の生活や学習状況をよりきめ細かく捉え対処する必要がある。あわせて、学校への登校を渋る児童や病気による多欠席児童について、家庭との連携を密に、関係機関とも相談しながら、適切な配慮をしていく。→次年度具体的な実践項目に

学校関係者評価会議において、「職員会議で自分の意見を積極的に発信」の評価が低いことに懸念が示された。その主旨は「意見の少ない先生に習ったら、子どもたちも意見を言わないように育ってしまわないか」というものである。

以下に、学校経営計画の項目に添いながら、各種アンケートも材料に検討した内容をまとめる。

目指す学校像から

◎子どもたちにとって、『楽しく学び合える学校』

子どもアンケート

- 「国語の学習はよくわかる」と回答した割合
「A=あてはまる」「B=どちらかといえばあてはまる」計92.1%
(前年比+5.9)
- 「算数の学習はよくわかる」と回答した割合「A」「B」合計83.5%
(同-2.7)

保護者アンケート

- 「授業がわかりやすい」と回答した割合「A」「B」合計91.9%
(同+1.8)
- 「授業がわかりやすく楽しい」と回答した割合「A」「B」合計83.5%
(同+3.9)

【まとめ】

日常的な授業改善を中核に据えた取り組みを行い、その成果を発信しようと11月後半に自主実践発表会(公開研究会)を開催した。教務部・研修部を中心に取り組みの方向性を示し、各ブロック・学年・学級それぞれが前向きに取り組んだことが、成果として表れ、児童や保護者にも実感として伝わったのではないかと考える。ここ数年の研修が「算数科」に特化してきたことから、その成果を北星小のスタンダードとして定着、継続させるとともに、授業改善を他教科に於いても確実に進め本校の教育力を向上させていかねばならない。

→次年度も「楽しく学び合える学校」を目指す学校像の第一に掲げる

→次年度も、授業づくり、授業改善を中核に据えた学力向上を重点課題にする

◎職員にとって『働きがいがあり専門性を高められる学校』

内部(教職員)アンケート

- 「授業づくり」「少人数指導」「学びのサポート」「ICT教育の充実」「研修」の項目に於いて評価が高い。(4段階表の3点台) すべて前年比+評価

別途実施の記述のアンケート

- 公開研究会については「全職員が同じ方向を向いて取り組めたことはとても大きかったと思う。」「公開研をして、ICTの活用授業を他の学校の先生方に広められたことはとても良かったと思います。」等、25寄せられた記述中22が肯定的な内容であった。学力向上の取り組みについても、取り組みに手応えを感じている記述やこれからに向けて前向きな記述が多い。

【まとめ】

大幅な異動の後、それぞれが学校課題を共有し、前向きに勤め、専門性向上への手応えを感じているものと受け止められる。次年度も、しっかりした方向性を共有し、取り立てて行ったことを当たり前として定着させ高めること。子どもの変容を通して成果が実感できることを目指して取り組まなければならない。

内部(教職員)アンケート

- 校務分掌に関する項目が前年比マイナスとなっている。
①分掌間、職員室スタッフと担任間等の連携 平均評定2.9(-0.3)
②分掌、特別委員会等の組織は良く機能したか 2.9(-0.2)

【まとめ】

次年度は、係で背負い込まず、校務部会でしっかり共有することや、学級学年経営に於いても、協働体制が取れる手立てを考えなければならない。

特別支援学級部を廃止、業務を他分掌の中に組み入れて1年が経過した。しかしながら、特別支援学級担任の業務負担軽減はなかなか進んでいない。今後、「インクルーシブ教育」の方向性を共有しながら、取り組みを「日常の交流」を主体に精選する等進めなければならない。

◎保護者にとって『安心し信頼できる学校』

保護者アンケート

- 子育てに関する悩みを相談できる人が周りにいますか
「A=あてはまる」「B=どちらかといえばあてはまる」 合計 94.2%
(前年比-0.5)
- 子育てに関する学習会や交流会に参加したいか 「A」「B」 合計 36.5%
(同-11.6)
- 子どもの生活習慣育成に学校と連携して取り組んでいるか
「A」「B」 合計 73.5%
(同+4.2)

【まとめ】

「目指す学校像」において、保護者の教育力を引き出すことを意図した項目についてのアンケート結果である。多くの保護者が、相談相手を持っており、一安心の結果であるが、子育て学習会や交流会への参加意識が減少している点が気がかりである。

P T A 活動はもちろん、P T A が管轄する図書ボランティアや読み聞かせボランティア、特別支援学級をサポートしているふれあいサークル等で、非常に熱心な取組が見られている。それらの活動の輪を広げられる工夫が必要と思われる。

また、本校を会場に活動している子育て支援サークル（トトロ）や、校区内にある N P O 法人共同学童保育所（じゃがいもクラブ）、あるいは、苫小牧市ファミリーサポートセンターの活用などについても周知を図り、活動の輪が広がるよう連携したい。

さらに、各町内会活動の運営に、幼・小期の子を持つ母親が携わり、地域の絆が生まれ地域の活性化にもなるとともに、何より本人の達成感や満足感があるという報告が学校関係者評価会議であり、それら活動の P R も必要と思われる。

冒頭にて示したように、学校の基本方針や学習に関すること、教師との関係について、好評価を受けていることに感謝し、学校としては、ベースとなる考えや取り組みについて自信を持って次年度も継続していくが、保護者アンケートで寄せられた一つの意見を参考に出来得る最善の細かな工夫改善を図りたい。

◎地域にとって『身近な存在の学校』

本校校区を支える土台として、成熟した町内会の存在がある。町内会を中心とした地域の方々が、地域防災や地域行事、防犯、交通事故防止等様々な面で活動している。各町会の文化レベルも高い。

今年度、本校を活用しての具体的関わり

- しらかば東町会「避難所見学会」の実施。
地域避難所に指定されている本校の見学会と危機管理室の方を講師に学習会
- 桜木町会サークル「低学年児童との交流」
生活科の学習「昔あそび」で交流

【まとめ】

地域防災の気運が高まる中、他の町会も含め連携を進めなければならない。学習活動で支援をいただくことに関しては、教育課程にしっかりと位置づけ活動の幅を広げ、継続することが大切と考える。

- 次年度 ☆桜木町会のサークルとの交流を「総合的な学習の時間」で企画継続する方向で
- ☆地域の介護福祉施設訪問や交流を模索

校区の公園や商店において本校児童の仕業ではないかと疑われる「非行行為」が報告されている。

具体的事例

- しらかば6丁目公園 チューリップ60本切り取られる 5月
- しらかば6丁目公園 スプレーペンキでいたずら書き 8月

放課後や長期休業中の地域住民からの情報提供
地域住民の指導を聞かず逆切れし悪態をつく
地域飲食店で子どもだけで飲食、注意され悪態 等
ピンポンダッシュ
公園周辺での自転車の乗り方が危険
商店のシャッターを蹴って歩く
敷地内に入って遊ぶ
苦小牧川のフェンスを越え結氷した上を歩く（超危険）

公共施設での悪ふざけや差別的な行為

【まとめ】

日常的な連携（保護者、PTA・町会・児童委員・子ども支援課・SSW・警察・児童相談所等）を土台にスピーディーな情報交換で素早い対応が今後も必要である。保護者の養育能力、虐待等についても関係機関との連携を密にアンテナを高く、対応を早くすることが今後も重要である。

学校関係者評価会議で、「地域に於いて現実にこういうことが起きていると言うことをオープンにして知るとともに、地域住人がアンテナを立て、多くの目で子どもを見守る必要性」が確認された。町会に於いても大きく発信する必要性を感じそうしている旨お話しがあった。また、近所で不穏な出来事や虐待等が疑われる事例があれば、学校（74-2155）や子ども支援課（32-6369）へ連絡することも必要との共通認識に立った。（子ども支援課は、子育て全般の悩みや子どもからの相談にも答えるそう）

同じく学校関係者評価会議で「結氷した川の上を歩いた」などの事例は、「命」に関わる重大事案であり、即指導する、事前に指導する必要性を指摘された（苦小牧川は堰があって深い。落ちたら助からない。）。

校内生活の指導とともに、校外生活についても指導、保護者への啓蒙を先を見越して行う必要がある。
→次年度重点課題

今年度の重点課題から

（1）授業づくり、授業改善を中核に据えた取り組みで学力向上を図ることに関して

本校の学力実態（4月実施）

6年生「国語」～全国学力学習状況調査の結果では、「活用力」は全国水準にあるが、「基礎的基本的事項」では全国を下回りほぼ全道水準
「算数」～「基礎的基本的事項」に於いては全道水準より低い状況。「活用力」に於いてはほぼ全道水準。

5年生「国語」～標準学力テストの結果で全国水準より偏差値で-3.6
「算数」～標準学力テストの結果で全国水準より偏差値で-3.3
※この学年は、3年4年5年と偏差値は向上してきている。

4年生「国語」～標準学力テストの結果で全国水準より偏差値で+0.2
「算数」～標準学力テストの結果で全国水準より偏差値で-2.1
※この学年は、2～3年時全国水準を2ポイント程度上回っていた学年。

3年生「算数」～標準学力テストの結果で全国水準より偏差値で-4.4
※前年度より偏差値でさらに2.8ポイント低下

2年生「算数」～標準学力テストの結果で全国水準より偏差値で-0.2
※2・3年生は「算数」のみ実施

上記テスト等を分析しつつ行ってきた本年度の成果が、次年度4月のテストで明らかとなることから、それらを分析し引き続き指導の工夫改善を図る。

【まとめ】

昨年度3項目に分かれていた学力向上に関わる取り組みを大きく一つの柱とし、喫緊の課題として意識化してきた。

6年生に実施の全国学力学習状況調査・2～5年生に実施の学力テストについて、教務部及び教育課程検討委員会を中心に結果分析がなされ、研修部との連携で、各学年・学級が具体的な方策や取組を行っている。次年度も個に応じた指導に生かすべく継続し、結果として児童の学力を確実に向上させる。

研修部が中心となって協働体制で進めている校内研修、さらに個々が行っている日
 常的な研修により、授業改善が一步步進んでいる。その成果を実践発表会として市
 内外へ発信できたことと自信を持ち、次年度もその深化充実を図りたい。特に、教科
 の面で算数科に特化してきた研修成果、学習環境づくりとその活用として重点的に
 進めてきたICTについて、本校のスタンダードとしてレベルアップを図る取り組み
 を次年度も続ける必要がある。さらにその土台に立って、他教科での授業改善を進め
 スタンダード化を図りたい。
→次年度引き続き重点課題

学校関係者評価会議において、何より日本語を正しく教えてほしいという意見があ
 った。学校としてもその通りと考へ、全教科・領域に於いて「言語活動」に力を入れ
 ていること、これからも続けることを確認した。

次年度行われる全国学力学習状況調査では、国語AB・算数ABの平均正答率が全
 国平均と同水準以上になることを目指す(今年度比で、国語Aは+3ポイント、国語
 Bは同水準、算数Aは+8ポイント、算数Bは+5ポイント以上が目標)。また、両
 教科で落ち込みが見られる領域が毎年似た傾向にあることから、それらの学力の確
 実な定着を目指す取り組みを続けている。現実として点数が上がることを目標としたい。
 国語の「話すこと・聞くこと」についてA問題で今年度比+2ポイント、B問題で+8
 ポイント。算数では基本となる「数と計算」でA問題+10ポイント、B問題+7ポ
 イントを目標とする。国語や算数の他領域、その他の教科においても、学年毎の特徴
 をとらえ、確実な学力向上を図る。

TT・少人数指導に関わる児童アンケート

○TTは分かりやすい

3年生 88%	4年生 98%
5年生 72% (前年比-19)	6年生 80% (前年比-4)

○少人数指導は分かりやすい

3年生 94%	4年生 92%
5年生 85% (前年比-2)	6年生 91% (前年比+9)

【まとめ】

高学年に於いて「TTは分かりやすい」という回答の割合が減り、少人数指導の方
 が「分かりやすい」と回答している割合が高くなっている。この結果と、寄せられた
 記述等も材料にさらに改善工夫をすすめる。

家庭学習の取組について 保護者アンケート

○若干の向上が見られるものの、およそ13%の家庭で習慣が身につけていない
 と回答

6年生で実施した全国学力学習状況調査の児童質問紙

○本校児童は、家庭学習の時間が全国の6年生に比べて短く、逆にテレビゲーム
 等に費やす時間が長くなっている。

全国学力学習状況調査

○学校の授業以外で普段2時間以上勉強(塾や家庭教師の時間を含む)する割合。

本校6年生 14.3%	全国 27.1%
-------------	----------

○普段テレビゲーム(コンピューターゲームや携帯式のゲームを含む)を2時間以
 上する割合

本校6年生 39.3%	全国 28.2%
-------------	----------

【まとめ】

次年度も、家庭学習の手引きを配布するとともに、「家庭学習コーナー」「ノート
 コーナー」について積極的な取り組みを行う。家庭との連携を強化しながら改善を図
 りたい。テレビゲームの時間を減らし、家庭学習や読書、運動時間を増やす生活。

胆振管内学力向上アクションプランに乗った取組、チャレンジテストやトライアル
 ウィーク等については、次年度も継続して行い成果を上げる。

(2) 教育環境の整備に関して

授業づくりに密接に関連したICT機器の整備等を計画的に行ってきたことが各種アンケートに於いても高く評価されている。

【まとめ】

今後も、計画的な整備と更新をすすめるとともに、必要な教材をバランスよく整備していかなければならない。
→次年度引き続き重点課題

(3) 特別支援教育の充実改善について

特別支援学級部を廃止し、インクルーシブな発想で業務が進められるように他分掌と一体化させ1年が過ぎようとしている。具体的な業務改善として課題、積み残しが多い。

【まとめ】

次年度も検討改善を加える必要がある。→次年度引き続き重点課題

(4) 読書活動の推進について

全国学力学習状況調査の児童質問紙の結果

○家や図書館で1日1時間以上読書する割合
本校6年生 23.2% 全国 16.4% 全国より高い水準

保護者アンケート

○お子さんに家庭での読書週間がついていますか。(保護者アンケート)
「A=あてはまる」「B=どちらかと言えばあてはまる」 68.9%
「C=あまりあてはまらない」「D=まったくあてはまらない」 29.6%

【まとめ】

今後も朝読書や読み聞かせを通して読書の習慣化を図らねばならない。
→次年度引き続き重点課題

図書ボランティアが頻繁に学校で活動したり、学年・学級PTAが朝の読み聞かせを行ったり等、読書活動を応援し高めようという雰囲気があり、これからも大切にしたい。

(5) 生活習慣の改善について

子どもアンケート

○近所の人にあったらあいさつする
「A=あてはまる」「B=どちらかと言えばあてはまる」 88.5%
(前年比+0.7%)
○朝食を毎日食べている 「A」「B」 94.0%
※全国もほぼ同水準 (同-2.8%)
○お手伝いをよくする 「A」「B」 74.7%
※全国 80.5% (同-5.4%)
○何時に寝るか 夜9時前 35.5%
(同-0.1%)

保護者アンケート

○お子さんに「早寝・早起き・朝ごはん」等の習慣が身についているか
「A」「B」 86.2%
(同+0.6%)

【まとめ】

各種アンケート結果を見る限り、全般的な傾向として本校児童は概ね良好な生活環境にあると推察できる。しかし、少数ながら、基本的な生活習慣が身につけておらず、遅刻が多かったり、学習意欲に欠ける、あるいは、集団からの逸脱行動が目立つ児童もあり、家庭とも連携しながら指導にあたる必要がある。

児童にとって「早寝・早起き」が成長によいこと、「朝ごはん」をきちんと食べることが一日の生活や脳を活性化させることによいことが明らかになっており、家庭での基本的な生活習慣づくりについて「さわやかリズム週間(早寝・早起き・朝ごはん)」の取り組み等を次年度も続ける。

新体力テストの全学年実施とそれを踏まえた運動習慣定着の取り組みなどを工夫実践する。縄跳びや一輪車の位置づけを整理する。
歯みがき指導、肥満児指導を継続する。

学校関係者評価会議に於いて、地域でのあいさつについて陰りが見られるとの指摘があった。地域に於いて大人からあいさつ・声かけをする必要性とともに、学校での「あいさつ運動」も強化してほしい旨意見があった。

(5～7) その他の重点(教育環境整備、校務の情報化、キャリア教育推進)について

経営計画に示したとおり、また、分掌反省における改善の方向性を生かし、次年度も引き続き位置づけていく。

キャリア教育について意識化するために、今年度全体計画に示したが、人権教育・環境教育について全体計画が作成されていないことから整備する。

その他

学校評価にあたり、内部会議を複数回行ってきたが、次年度から2ヶ年計画されている校舎耐震化工事に伴い様々な配慮が必要になってきた。

○耐震化工事にいたる経緯

H24年度耐震診断の結果 本校校舎IS値 0.12～0.16
(プレイルームは0.73)
※文部科学省では、安全の目安を0.7以上と定めており、本校の判定はC

IS値 地震力に対する建物の強度や粘り強さなどを示す指標で大きいほど耐震性能が高い
震度6強から7程度で 倒壊または崩壊する危険性が低い 判定A
がある B
が高い C



早急に耐震化が必要 H26年度児童棟 H27年管理棟の予定

○今後の流れ

5月中旬 どこからどのように進めていくか市教委・業者・学校 相談
↓
7月中旬以降開始
(当初予定より遅れている)

○学校として心配すること

通常教室の工事に伴う移動
工事に伴う特別教室や少人数指導学級の確保
トイレや廊下の使用 掃除箇所や掃除用具

落ち着いた日常生活の維持
落ち着いて学習に向かえる配慮
環境の変化等が誘引しての事故等の防止

工事車両等と児童の接触回避
工事関係者と児童とのトラブル・事故回避 等々

【まとめ】

☆次年度から

○校務運営委員会(別称=耐震化対策委員会)を機能させ、スピーディーかつ小回りがきく運営を
教頭 教務1 情報1 研修1 生徒指導1 保体1 施設管理1
各学年ブロック1(分掌代表との兼務可)
→次年度から2ヶ年重点課題として対応していく

各分掌等における具体的事項

①危機管理体制の改善に関して

東日本大震災の教訓を生かし可能な限り危機が想定内となるマニュアルを作成し、職員が共有するようにしてきた。

次年度はさらに、「いじめ防止関連法施行」を受けて法令遵守の校内体制の整備や「アレルギー緊急対応マニュアル」の追加等を行い周知共有しなければならない。

今年度避難訓練は、津波発生授業中・火災発生授業中・地震発生休み時間と場面を変えて行った。特別な場面を想定して行うことで実際に困難な場面に遭遇した時の危険回避能力を高める上で効果があったと評価している。

次年度は校舎耐震化工事との関連で工夫して行わなければならない。

異常気象が原因と思われる今年度の事例

8月後半から 校地内でハチの巣3件
スズメバチ2件 セイヨウマルハナバチ1件
8月27日 夕刻 ゲリラ豪雨 100mm/h (レーダー解析)
90mm/h (アメダス値)
暴風雨は別途記載

異常気象に伴う天候の急変や環境の変化に対応できる準備を一層整える。

危機管理黒板を有効に活用する。

②サービス規律の保持に関して

今年度、職員のサービスに関わる事故がなかった。引き続きサービス規律の保持に努めるとともに、諸帳簿の処理、新たな制度等について周知理解を図り、適正な運用に努める。

③不審者被害・交通事故防止等安全・安心への取組に関して

今年度、緊急時メール配信を開始

運動会延期の配信などはスムーズで、好評であった。
台風に伴い市教委、校長会との連携で前日までにプリント配布した時は混乱なし
暴風警報に伴って前日までに連絡できず、下校時刻を早め集団下校した際混乱。

6月15日(土) 運動会雨天順延の連絡を早朝、連絡網とメールで周知。
10月16日(水) 台風26号関連で全市臨休 前日プリント配布
10月28日(月) 前週金曜日に台風状況と対応についてプリント配布
月曜日は結果として通常登校
11月25日(月) 前週のうちに対応できず、当日市内一斉に時刻を早めて
の下校。

※緊急時メール配信について「良かった」という記述が保護者から多くあった一方で、11月25日の対応については、改善を求める記述が複数あった。

次年度も継続するとともに、より効率的な運用を検討(パターンを想定し、基本的な連絡手順を確立する等)し、保護者や地域関係者へ周知する。
全家庭のメール配信システムへの登録を目指す。

学校周辺の通学路を一部変更した。

次年度以降も継続(耐震化工事関連での臨時的措置は別)。

④教育課程の改善に関して

今年度の実践を振り返り、教科カリキュラム改善を行う。今年度中に教育課程検討委員会を中心に進める。

⑤少人数指導や学力向上などに関して

少人数指導やＴＴ等多様な学び方を工夫し学力向上に努める。
ＩＣＴ機器活用はもちろん、基礎基本を確実に定着させる取り組み、多様な学習形態やノート指導、ペアやグループ学習による活用力の育成などを研究しながら進める。
サマースクールやウィンタースクール、補充学習を一層進める。

⑥見学学習（５年生）の行き先変更に関して

伊達の自然の家が閉じる事を踏まえ、日高少年自然の家に行き先を変更。

次年度も継続し、当該施設並びに周辺情報を蓄積していく。

⑦特別支援教育関係

校内支援委員会の活用を次年度も進めるとともに、学年やブロックでの協働体制を進める。特別支援学級の事業について、インクルーシブな方向で改善を進める。

⑧基本的な生活習慣の乱れについて

内部(教職員)アンケート

○「生活習慣の育成」の項目で評価ダウン

今年度の校内での具体的事例や指摘された内容

壁を壊した 窓ガラスに石をぶつけて割った 学年をこえてのくつつかし
給食配膳物のぬすみ食い？
廊下でのたむろ、すわりこみ 廊下を走る 授業中にろう下で大声
授業から逃亡し他クラスの妨害 ろう下で口笛
体育館器具室や階段下などでコソコソ 集団でトイレへ行く
大人や教師への言葉づかいが悪い

児童指導に関わって、校内支援委員会において、個別に課題をかかえる児童に関して、情報交流と具体的な取組を企画してきた。その成果は大きいと考える。次年度は、同委員会でも企画した内容等をブロックや学年、学級で確かに意識して取り組むことが大切と考える。さらに、いじめ防止関連法の施行や「インクルーシブ教育」の方向性をしっかりさせる意味での校内体制の整備も行わなければならない。

集団からの逸脱行動が目立つ一部児童に対して、その子にとっての最善の教育環境を整える事が万全とは行かず、結果として関係学年や学級の授業が落ち着かなくなるような状況が発生したことは反省しなければならない。次年度は、学級づくりや道徳指導、キャリア教育的な内容をより計画的に行うとともに、家庭との連携や特別支援教育支援員の効果的な活用、職員の連携、関係機関との協力等々に、より万全を期さなければならない。

次年度には、校舎の耐震化工事が本格的に始まることとなっている。それに伴い「落ち着いた学校生活」が例年以上に求められる年となる。このことを踏まえても、「基本的な生活習慣確立に関する指導」「学校内外での生活指導」等に関して見通しをもって取り組むことが重要であり、関係機関との連携も密にしていかなければならない。

休み時間の過ごし方など改善が必要な部分がある。学級指導だけでなく全校的に取り組む。

「あいさつ」について気持ちよくできるよう継続して取り組むこととしていたが、十分であったとは言えない。集会を使った全校的な啓蒙も考える。

→校内外の生徒指導体制の充実、あいさつ強化を重点課題とする

⑨いじめアンケートの実施について

これまでの取り組みを土台にいじめ防止関連法との関係で校内体制を整備する。日常的な集団づくりや友だちづくりを大事にしつつ、アンケートを取るだけでなく個人面談などできめ細かく対応していく。

⑩ 児童会活動に関して

今年度、活動しながら改善の内容を整理してきた。

次年度、委員会数を減らすとともに、三役の選考方法を変える。また、児童会が進行役を担ってきた「北星まつり」を廃止する。さらに、昼の放送の回数を減らすなど行う。

⑪ 保健室関係で

病院受診事故は、昨年度21件から今年度12件（12月現在）に減少傾向。保健室利用者は、4～2月、昨年745件（内、内科238件）に対し今年852件（内、内科322件）と一昨年に続き、増加傾向。

次年度、ケガが減るよう引き続き安全指導に努める。

⑫ 学校の暖房設備等について

体育館の暖房パネルについて、十数枚故障していたものを修理していただいたがその後漏電が発覚、再び電源を切って調査待ちの状況。冬の寒さに対して、教室等の暖房設備能力が追いつかず冬大変寒い。

改善を教育委員会に引き続き要望。

⑬ 施設設備の営繕に関して

暖房設備のみならず、施設設備の老朽化によって営繕の必要なところについて、市教育委員会へ要望していく。

PCの更新とともに、ホームページの新システムが稼働。次年度からは、担当を決めるなどして生き活きとした情報発信に努める。

⑭ 節電や紙のリサイクル制度への取組に関して

職員室や体育館、廊下の照明等で、できるだけ節電してきた。昨年度7.65%（H20～21年の平均値比）節電であったが、今年度は、15%程度（同比）の節電が見込まれている状況である。

上質古紙のリサイクル制度への取組も実施。情報流出に注意しながら、できるだけシュレッダーを使わない体制をとってきた。（H23年度実績で、トイレトペーパー384個配当であったが、H24年度は同200程度《これは配当個数が減ったため》）。

次年度も引き続き行う。

保護者アンケートでの記述に対して

※学校評価書で触れられていない内容についてここで取り上げました。保護者アンケートや児童アンケートを材料に会議を持ち、学校評価書を作成しておりますので、概ねそちらで触れられているかと考えています。「よかった」と評価できるものについての記述もたくさんいただきました。ありがとうございました。

◎図書館の蔵書を増やす

→本校図書室の蔵書は、学校規模に見合った基準数に達していません。毎年限られた予算で購入していますが、廃棄本も出てきますのでなかなか増えません。図書購入費の増額を引き続き教育委員会へ要望していきます。今年度、PTA古紙回収費から予算をいただき、シリーズ本などで抜けてしまったナンバーを古本店で購入し穴埋めするという仕事を「図書ボランティア」が行ってくれています。大変ありがたく感謝しています。

◎学校図書館の貸出を1週1冊でなく、2冊ぐらいにする必要があるのではないのでしょうか。

→返却日に返ってこない等のことから一人1冊とし、確実に返してから次を借りるように指導してきました。また、貸出・返却の事務作業面のこともあり1冊としています。しかし、読書が習慣化し、一人の読む量が増えるのはよいことですので、その辺りも視点に検討させて下さい。

◎低・中・高学年と参観日の日程が連日になるのは避けてほしい。

→兄弟がいて大変なのかと推察致しますが、ご理解頂ければと考えます。

◎学習発表会気づいたらあつという間に終わったりして淋しいので、もう少し迫力があつたら嬉しいです。劇とか演奏楽器とかやってほしいです。

→それぞれの学校でその行事のねらいを持ち、様々な取り組みがなされています。学校によっては、学芸会の機会に外部講師を呼んでレベルの高い体験をさせ、発表するところもあるようです。しかし、現状本校では、日常の学習の延長に位置づけ、限られた取り組み時間で発表用にまとめ、「学習発表会」として披露しています。日常を感じさせる素朴な内容もそれはそれで価値があると考えています。

◎参観日で、上学年の学級懇談の時間が1年生の下校時間と重なってしまうため出席できなくて残念です。低学年の間、学校で待つことができるのととても助かります。

→連絡帳でも、口頭でも言っていたいただければ対応できます。

◎PTA活動へ緊急に参加できなかった時、どこに連絡すればよいのか分からず困りました。

→案内で特別に連絡先が記されている場合を除き、「教頭(PTA事務局)」が窓口です。学校(74-2155)へご連絡下さい。

◎小さな地震でも机の下に避難するようにしてほしい。→適切に対応するようにします。

◎苦教研の全市一斉に3時まで家庭学習と言うことになりましたが、これまでは早く帰ってきた分、普段部活等でなかなか遊べないお友達とじっくり遊べるよい機会だったので、それがなくなりちよっぴりかわいそうな気がしました。難しいかもしれませんがどうかならないかと思いました。

→この時間帯で事故が発生したことなどもあり、全市的に共通理解して徹底しようということになりました。学力向上も叫ばれている折、ご理解頂けるようお願い致します。

◎学期毎とか年に数回、担任との親子面談など個人的に話す機会があると情報交換も出来、学校との関係も密になると思う。

→計画しての個別にお話する機会は、家庭訪問のみの設定となっており、現状さらに増やすのは難しいと判断しています。ただ、日常的に放課後など一声かけていただければ個別の懇談は全く可能ですので前向きにお願い致します。また、担任の方から臨時的な家庭訪問や学校での教育相談をお願いする場面もありますのでご理解をお願い致します。

◎市や学校で行った学力テストの結果を教えてください。(個人・学校別など・・・)

→6年生には全国学力学習状況調査、2～5年生には標準学力テストを実施しており、個々の結果はそれぞれの様式で配布されています。教科に限られ、筆記試験ですので全ての学力を測定していることにはなりません。お子さんがどのような状況にあるか把握し、どんなところをがんばればよいか話し合ったりする資料としてご利用いただきたいと思っております。

これまで学校別の平均点などは、過度な競争や序列化を生むという懸念から公表できないこととなっていて、おおよその内容を学校だより等でお知らせしてきました。平均点などの公表について「学校設置者(苫小牧市教育委員会)」の判断により行えることとなりましたが、市教委の判断はまだ出ておりません。新年度のテストまでに判断があると思っております。

◎(高学年なのに)図工の教材で3～4年生用を使用したのはなぜだろうと思いました。

→教材としては、3～4年でも5～6年でも使えるものが市販されています。教科書にも、似たような内容があったりします。しかし、求めるのはあくまでその学年レベルの内容です。

◎運動会での飲酒、喫煙について

→校区内は、禁酒・禁煙です。みなさんのご理解と節度ある行動をお願い致します。

◎先生方のやり方の違い、学年毎に扱いを少しずつ変えてほしい。学年にあった担任の決め方・・・、この学年じゃない先生だとかこの先生はあの学年という先生がいると思いがすが・・・

→「やり方の違い」については、それぞれが教員免許を持って研鑽していることもあり、違った場合が出てきます。それでも、よりよいと思われる方法でスタンダード化(標準化)を図るようにしています。個々の研鑽と組織研修での標準化の両面が現場には存在します。また、同じ内容でも児童の実態に応じてやり方は変わる場合がありますし、学年相応で当然違っているはずで、いずれにせよ、子どもにとってより良い指導法を考えていかなければならないと考えています。

→学級担任等の配置については、構成メンバーで最善となるよう配慮しているつもりです。しかし、記載されたような印象を持たれないよう今後工夫していきたいと思っております。

◎ペットボトルのフタやリングプルを常時回収したらよいと思う。小さなことでも少しずつ積み重ねれば大きなことができる例えとなり、子どもたちに教えることができると思うから。

→ペットボトルのフタ、リングプルともに常時回収しています。ペットボトルのフタは、中央玄関に回収ボックスがあります。この2年間管轄が不明瞭になり周知されていまして、申し訳ありません。フタは、学校で扱っており、回収後、沼の端清掃事業所を経由してNPO法人「世界の国へワクチンを日本委員会」に寄付されます。リングプルは、PTAのベルマーク活動の扱いとなっています。

◎ゲーム機の家庭からの持ち出しは低学年の間は禁じてほしい。

→学校では、高価なゲーム機や現金を外出時に持ち歩くことはトラブル誘因となるなど懸念していますが、基本帰宅後のご家庭の範疇ですので家庭で指導したり、約束を決めるなどしてほしいと考えています。

◎学校で行っている地震や大津波の子どもたちの避難経路や場所など、親にも詳しく内容等を手紙で教えてください。

→火災発生時には、最寄りの避難階段や非常口からグラウンドへ避難するのが基本です。

→地震発生時には、身を守る行動の後、指示によりグラウンド、あるいは校舎3階へ(大津波警報時)上がることが基本となります。

◎アンケートは無記名でよいのではないのでしょうか。

→過去に、あまりに無責任な書き込みが多かったため、記述式として今年を迎えています。子どもがより良く育つ、学校がより良くなるという観点で記述してほしいと考えています。

